

科目名	科目担当代表教員	ページ数
神経・細胞生理学特論	木村 一志	2
身体機能解析学特論	佐藤 明紀	7
病態生理学特論	瀧山 晃弘	12
運動器障害学特論	白戸 力弥	17
高齢者リハビリテーション学特論	佐々木 幸子	22
神経・発達障害リハビリテーション科学特論	横井 裕一郎	27
職業リハビリテーション学特論	大川 浩子	32
心身統合健康科学特論	金 京室	37
プレゼンテーション技法	金谷 匡紘	42
リハビリテーション科学特論	木村 一志	47
リハビリテーション管理学特論	大川 浩子	52
研究倫理特論	木村 一志	57
統計学特論	松岡 審爾	61
保健福祉政策論	水本 淳	66
リハビリテーション科学特別研究	木村 一志	71
教育課程・方法特論	加藤 裕明	84

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		神経・細胞生理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことも関係する。「神経・発達障害学特論」と関連し、「神経・細胞生理学特論演習」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>遺伝子や細胞を基盤とする様々な生命現象を理解し、疾患、障害やリハビリテーションの背景となる人体の仕組みを分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで学修する。また、脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機構について、分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで理解し、リハビリテーションによる神経機能回復について神経科学的観点から学修する。</p>							
到達目標							
<p>細胞の構造、細胞を構成する物質とその役割について理解し、説明できる。 細胞が行う代謝、遺伝子発現、シグナル伝達や増殖・発生について理解し、説明できる。 免疫、がん、遺伝病について理解し、説明できる。 中枢神経系の構造と機能を理解し、生体機能を担う神経情報伝達の仕組みを説明できる。 運動制御の背景となる神経生理の基礎及びその神経系の統合作用について理解する。 中枢神経系疾患の病態生理を理解し、説明できる。</p>							
授業の方法							
<p>オンラインまたは対面で行う。 パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、教科書の輪読とゼミ形式での文献紹介を行う。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
授業中の発表に対してディスカッションを行いながら知識の確認を行う。 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	生命科学の基本概念－生命を構成する物質、細胞、恒常性について理解する。	教科書1第1～3章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	生命現象の仕組み1－タンパク質、核酸、遺伝子発現、生体膜、代謝、バイオテクノロジーについて理解する。	教科書1第4～6、8～10章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第3回	生命現象の仕組み2－細胞内輸送、細胞骨格、細胞のシグナル伝達、細胞周期、動物の発生、遺伝子発現の制御について理解する。	教科書1第12～18,20章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第4回	疾患の生命科学－遺伝と遺伝病、免疫機構と免疫疾患、細胞の増殖および制御と発がんについて理解する。	教科書1第7,23,24章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			

第5回	神経細胞による情報伝達機構を理解する。	教科書2第1～4章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第6回	中枢神経組織の構造と機能を理解する。	教科書2第5～13, 15章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第7回	神経発生と神経回路形成のメカニズムについて理解する。	教科書2第52～56章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第8回	感覚受容機構と脳における情報処理: 視覚・聴覚・平衡覚・体性感覚・嗅覚・味覚について理解する。	教科書2第16～32章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第9回	脳の可塑的变化やシナプス可塑性と学習・記憶のメカニズムを理解する。	教科書2第57, 65～67章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第10回	自律神経系と内分泌、脳の高次機能について理解する	教科書2第45～49,60,61章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			

第11回	中枢神経系による運動制御の概略について理解する。	教科書2第33,34章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第12回	運動制御機構1: 脊髄・脳幹レベルの運動制御機構について理解する。	教科書2第35,36章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第13回	運動制御機構2: 大脳皮質による運動制御機構について理解する。	教科書2第37～40章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第14回	運動制御機構3: 小脳・大脳基底核による運動制御機構を理解する。	教科書2第41～44章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第15回	ゲスト講師(三重大学医学系研究科溝口明教授)による特別講義 中枢神経疾患、障害とそのリハビリテーションの神経科学的基盤について学修し、理解する。	教科書2第14,56,57,59章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回講義のまとめレポート作成と生命科学と神経科学に関する原著論文を数篇読んでレポート作成	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>1.理系総合のための生命科学第4版、東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社 2.カンデル神経科学、カンデル他編、メディカルサイエンスインターナショナル</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>なし</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		身体機能解析学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、田邊 芳恵						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」に対応する科目である。リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することを考える基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>ヒトの運動及び身体機能の解析について、運動学的、基礎医学的な手法を学び、それぞれの特徴を捉える。さらに学んだ手法によって得られた結果を基に身体機能について理解を深め、正常と異常の差異を明らかにする。得られた知見からリハビリテーション領域における臨床応用の基礎を構築する。</p>							
到達目標							
<p>ヒトの運動及び身体機能の解析方法を説明できる。 四肢及び体幹の運動や身体機能について正常と異常の差異を説明できる。 得られた知見からリハビリテーション領域における臨床応用について説明できる。</p>							
授業の方法							
<p>最新の知見や学生それぞれの臨床経験を踏まえたディスカッションを交えながら、講義形式で行う。</p>							
ICT活用							
<p>必要に応じてGoogle Meetを用いて双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤および田邊は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中のディスカッションを通して理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション。 各自が興味のある身体部位について理解を深めたい事柄を整理し、要点をまとめる。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第2回	上肢の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第3回	前回の講義内容を元に、上肢の外傷と疾患について理解を深める。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第4回	前回、前々回の講義内容を元に上肢の外傷予防について考察する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		

第5回	下肢の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第6回	前回の講義内容を元に、下肢の外傷と疾患について理解を深める。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第7回	前回、前々回の講義内容を元に下肢の外傷予防について考察する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第8回	体幹の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第9回	前回の講義内容を元に、体幹の外傷と疾患について理解を深める。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第10回	前回、前々回の講義内容を元に体幹の外傷予防について考察する。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		

第11回	筋電計を用いた身体解析の基礎について学ぶ。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第12回	筋電計を用いた身体解析の実際を学ぶ。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第13回	体組成解析の基礎と実際を学ぶ。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第14回	基本動作能力解析の基礎と実際を学ぶ。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
第15回	歩行分析・解析の基礎と実際を学ぶ。	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	田邊 芳恵、佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内のレポート課題で評価する。	

<p>その他</p>	<p>50</p>	<p>授業中に行うディスカッションへの参加や発言の内容を評価する。</p>
<p>教科書</p>		
<p>特になし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>特になし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>レポート課題作成のためPC及びインターネット環境を整えておくこと。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		病態生理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
<p>リハビリテーション分野に関する専門の知識や技術を醸成するため、学部境域で学んだ基礎医学の知識をさらに発展させ、研究を行う上で必要なリハビリテーション医学と関連の深い疾患の最新の病態生理学を学び、大学院での今後の研究を実施するのに役立ち、将来的に職場や地域社会に貢献する能力を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。」に関連する。「生命科学特論」に関連し、「病態生理学特論演習」や「神経生理学特論ならびに演習」、「運動器障害学特論ならびに演習」、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーション医学と関連の深い神経系や運動器系などを含む全身諸臓器について、それぞれを構成する細胞・組織の発生からその形態的・機能的特徴について、分子・細胞レベルから組織・臓器レベルまでを学び、各臓器への基礎医学的な理解を深め、それぞれの臓器での各種疾患の病因や病態生理を学習する。さらに機能回復に向けた治療の現状や再生について基礎医学的観点から学習する。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系および末梢神経系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的神経疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。 2. 骨・関節・筋など運動器系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的運動器疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。 3. 上記のほか全身諸臓器の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。 							
授業の方法							
<p>オンライン授業を実施する。 必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。</p>							
ICT活用							
<p>Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論1. 病理学とは 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	総論2. 細胞傷害 細胞傷害の種類やその機序を学ぶ。また傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	総論3. 先天異常 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形の種類、染色体異常とその代表的疾患を学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	総論4. 循環障害 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	総論5. 炎症 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	総論6. 免疫異常とアレルギー 免疫と免疫系の細胞、アレルギー反応、免疫不全症や自己免疫疾患などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	総論7. 感染症 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、宿主の反応などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	総論8. 腫瘍 腫瘍の概念や分類、その形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	各論1. 「心臓の疾患」「脈管系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	各論2. 「造血系・リンパ系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	各論3. 「呼吸器系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	各論4. 「消化管の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	各論5. 「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	各論6. 「泌尿器系の疾患」「男性生殖器系の疾患」「女性生殖器系と乳腺の疾患」「内分泌系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	各論7. 「筋・骨格系の疾患」「皮膚の疾患」「脳・神経系の疾患」「眼と耳の疾患」「全身性疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テストなど。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特記事項なし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>教科書は特に指定しない。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>標準病理学 第6版／北川正伸ほか編集／医学書院</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>特記事項なし。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>特記事項なし。</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		運動器障害学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、高田 雄一、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
<p>1. リハビリテーション分野のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的な役割を果たすことが出来る為ための科目である。</p> <p>2. リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することが出来るための科目である。</p> <p>3. リハビリテーション分野に関する各専門分野の知識と技術を持って、職場や地域社会に貢献することが出来るための科目である。</p> <p>4. 運動器障害学特論演習の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>上肢、下肢、脊柱の機能障害に対するリハビリテーション治療の臨床・研究の現状を理解し、今後の課題について学修する。</p>							
到達目標							
<p>1. 上肢、下肢、脊柱の機能障害に関する最新の文献に触れ、研究動向を理解できる。</p> <p>2. 上肢、下肢、脊柱の機能障害に対する徒手療法、運動療法について理解できる。</p> <p>3. 足部の機能障害、身体運動のパフォーマンス向上を目的としたインソール療法について理解できる。</p>							
授業の方法							
<p>オンライン授業を中心に実施する。パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、ディスカッション方式で授業を行う。またゼミ形式で各自の研究テーマに応じた英文抄読を行い理解を深める。</p>							
ICT活用							
<p>Google Meetを用いた、遠隔授業を実施する</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

指導にあたる教員は15年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の終わりにディスカッションを行い、内容の理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション コースガイドについての説明	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	肩関節の運動と頸椎分節運動の関係について	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	肩関節肢位と手関節伸筋群の筋活動の関係について	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第4回	母指と小指の自動外転時の手関節周囲筋の筋活動について	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第5回	屈筋腱狭窄性腱鞘炎のスプリント療法の治療メカニズムについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	手根管形態変化のメカニズムについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第7回	歩行・動作に関連する評価と治療アプローチについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	足関節の評価と治療アプローチについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	足部の評価と治療アプローチについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	腰部機能障害の評価と治療アプローチについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	インソールによる治療アプローチについて	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	肘関節機能とバイオメカニクス	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	手関節機能とバイオメカニクス	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	手指機能とバイオメカニクス	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会	テーマに関する内容を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席率、授業態度により決定する	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>指定しない。適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>臨床において下肢、脊柱の運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。複数人の履修が望ましい。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		高齢者リハビリテーション学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 幸子、玉 珍、小林 英司						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」、「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる。(知識・技能)」、「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。高齢者リハビリテーション学特論演習の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>本講義では高齢者の諸問題を包括的な視点で捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを展開するために必要な基本的知識、方法論について概説する。介護予防及び高齢者を対象としたリハビリテーションについて、その理論的背景、評価・実践技法、効果判定方法などを考究することを目的とする。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 心身機能、社会的機能を含めた包括的な高齢者の特徴について説明できる。 介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの評価・分析方法について、具体的手法とその理論的背景を説明できる。 介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの実践指導演法について、その理論的背景、効果判定、効果機序を説明できる。 							
授業の方法							
<p>配布資料を活用しながら、講義形式とゼミ形式を併用して進める。 講義中に提示した課題について、学生がプレゼンテーションを行う。 論文抄読の回では事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。</p>							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は老年期障害に対する理学療法、作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義テーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。
レポートにコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	加齢に伴う身体、精神・心理、社会的機能	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	フレイル、サルコペニアの評価、治療、予防介入に関する最新の知見	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	フレイル、サルコペニアに関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第4回	高齢者の身体活動に関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	高齢者の社会活動に関する国内外の現状と課題	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	COVID-19パンデミックによる高齢者への影響	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	認知症患者数の増加が現代社会に及ぼすインパクト(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第8回	アルツハイマー型認知症の病院解明研究と治療法開発の現状(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第9回	アルツハイマー型認知症の新たな増加抑止戦略:The Nun Studyの報告から考える(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第10回	高齢者に多い神経変性疾患とリハビリテーション①:パーキンソン病(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		

第11回	高齢者に多い神経疾患とリハビリテーション②:脳血管障害(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第12回	神経リハビリテーションのこれまでとこれから:歴史的変遷からの考察(小林)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第13回	高齢者のリハビリテーション評価・分析	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第14回	高齢者の日常生活介入・環境調整	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
第15回	高齢者リハビリテーションの現状と課題	連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし。必要に応じて参考書籍、文献を紹介する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>なし</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>なし</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		神経・発達障害リハビリテーション科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、牧野 均、金谷 匡紘、松田 直樹						
授業の位置づけ							
<p>神経障害、発達障害全般のリハビリテーションに関する専門的知識を獲得するための科目である。この科目を学習することで広く障害を捉えることが可能となり、さらには神経・発達障害を研究的視点で捉えることが可能である。学部で学習した神経・発達障害関連の知識を、研究・臨床実践的にさらに応用できるようになる。本科目はディプロマポリシーのリハビリテーション分野の知識と技術の進歩に対応できる、またリハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応できると、関連している。</p>							
授業の概要							
<p>神経障害は身体構造、心身機能、活動レベル、さらに社会参加など、Quality of life (QOL, 生活の質)に大きく影響するものである。本科目では、神経障害の様々な臨床像を学習し、評価、治療に関する知識を深める。また子どもから大人までの神経障害を学習し、研究を立案する際に、現在理解されている障害についてより知識を深める。対象者に貢献できるリハビリテーションの具体的な内容を提案するための、基礎知識から評価や治療に関する最新の知見、さらには研究的視点を学習する。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経障害学、発達障害学全般について基本的知識を習得する 2. 多様な神経障害のうち特に、基底核・小脳障害、運動ニューロン障害、脊髄障害、高次脳機能障害などを含む 疾患について、症候学から評価法に至る過程を習得する 3. おもな神経疾患、発達関連障害について、根拠を示しながらより効果的なリハビリテーション治療学を学習する 4. 近年、注目されているリハビリテーション治療方法を学習する 							
授業の方法							
<p>パワーポイントや配布印刷物を活用しながら講義形式、または受講生が事前学習したものについて、教員と意見を交わしながらのゼミ形式で進める。</p>							
ICT活用							
<p>google meetを使用した遠隔授業、課題フィードバックの実施、google classroomを使用した論文・動画資料を共有して学習動機を促す</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

本科目を担当する4名の教員は病院施設での実務経験を有しており、リハビリテーションの実践と研究の両面から教えることが可能である

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。提出されたレポートに対して、不足があれば補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション,神経障害リハビリテーションの歴史 (横井裕一郎)	事前に配布資料をまとめて、プレゼンする準備をする(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	神経障害の陽性徴候①・痙縮と評価	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
第3回	神経障害の陽性徴候②・不随意運動・運動失調と評価	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
第4回	脳血管障害の病態像とリハビリテーション①	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	牧野 均		

第5回	脳血管障害の病態像とリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	脳血管障害の病態像とリハビリテーション③	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	脳血管障害の病態像とリハビリテーション④	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション①	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第10回	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション③	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	金谷 匡紘		

第11回	脊髄損傷の病態像とリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	牧野 均		
第12回	脳性まひの病態像とリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
第13回	神経難病の病態像とリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第14回	神経障害への新しいリハビリテーション①ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	神経障害への新しいリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料を読んでまとめてくること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、プレゼン課題と授業への参加態度により総合的に評価します	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業前、授業中に提示</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>担当教員と日時調整しながら行う</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		職業リハビリテーション学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」「障害のある人の社会参加および地域生活を支援することができる(知識・技能)」と関連する科目である。「職業リハビリテーション学特論演習」「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>障害当事者の生活において、「職業」はリカバリーにかかわる重要な作業である。本特論では、障害当事者に対する生活支援について職業リハビリテーションの側面から学ぶ。特に、近年注目される精神障害、発達障害等の多様な特性を持つ障害当事者の職業リハビリテーションの現状を理解し、課題について考察する。</p>							
到達目標							
<p>1)障害当事者の生活における「職業」の重要性を理解し、必要な諸制度を述べることができる。 2)障害当事者の職業リハビリテーションの現状と課題について具体的に述べるができる。 3)精神障害、発達障害当事者に対する具体的な就労支援の方法を述べるができる。</p>							
授業の方法							
<p>配布資料と教科書による講義とディスカッションで行う。</p>							
ICT活用							
<p>なし</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題についてはコメントを付けて返却します。発表についてはその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 職業リハビリテーションの定義と国内外の動向	基礎と実践P1～57を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第2回	我が国における職業リハビリテーションのシステムと課題	基礎と実践P58～72を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第3回	職業リハビリテーションの視点と流れ:アセスメントを中心に	基礎と実践P92～133、入門P140～180を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第4回	職業リハビリテーションに用いられる評価	職業リハビリテーションに用いることが可能と思われる評価法について列挙すること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			

第5回	領域ごとの就労支援①:知的障害領域、精神障害領域、発達障害領域	基礎と実践P284～291を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第6回	領域ごとの就労支援②:その他の障害と就労支援が必要な領域の広がり	基礎と実践P274～283、294～295を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第7回	職業生活の実際:就労する障害当事者と就労支援実践者の講演1(ゲストスピーカー:就労支援実践者または当事者)	1～6回目の講義での疑問点をまとめること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第8回	職業生活の実際:就労する障害当事者と就労支援実践者の講演2(ゲストスピーカー:就労支援実践者または当事者)	我が国の就労支援に関する論文を検索し、読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第9回	職業リハビリテーションの技法①:復職支援について(EAP、リワーク等)	基礎と実践P215～232を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第10回	職業リハビリテーションの技法②:ジョブコーチ等環境への介入について	基礎と実践P134～180、入門P227～243を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			

第11回	職業リハビリテーションの視点①: ストレングスモデル	ストレングスモデルについてWeb等で調べること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第12回	職業リハビリテーションの視点②: 就労の継続とキャリアデザイン	基礎と実践P183～214、入門P30～60を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)
担当教員			
第13回	発表に向けて; 手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、テーマ設定について考えること。(60分)	自分の設定したテーマについて調べ、まとめる。(120分)
担当教員			
第14回	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション	自分の設定したテーマについて、プレゼンテーションの練習をする。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	1～14回目の講義で得られたことと疑問点をまとめること。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業における態度、課題提出をもって総合的に判断する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 職業リハビリテーション入門改定第2版/松為信雄・他編/協同医書出版</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>講義中に適宜紹介します</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>特になし</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		心身統合健康科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	金 京室、未定						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。」「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる」の達成に向けた科目である。「地域健康生活支援分野」に位置づけ、ヘルスプロモーション学を基礎に置き、身体・精神両機能を統合した広い視野に立ったより効果的なリハ技術を創生するための科目である。

授業の概要

健康回復・増進メカニズムについて、身体と精神の2元論を超えた身心相互関連に焦点を当てつつ、環境と人との相互作用も含めた統合的理解を志向する科目である。人の心身健康に向けたアプローチにおいて踏まえるべき原則について、統合的思考を継続する態度を養成するために必要な文献購読や議論を行う。

到達目標

1. 身心の二元性と一元性のとらえ方について問題意識を持ち考察することが出来る。
2. 身心を統合的にとらえることについて自身の問題意識を述べる事が出来る。
3. 自身が関心をもつ活動や技法の心身効果研究にふさわしい測定指標を列挙できる。
4. 関心をもつ活動や技法の心身効果を明らかにするためにふさわしい研究法について述べる事が出来る。
5. 関心をもつ活動や技法による心身効果を最大にする様々な条件の一部を理解し、実施技術が向上する。

授業の方法

院生の準備として、身心を統合的にとらえることについての問題意識やキーワードを口頭発表する。そのキーワードを用いて文献検索を行い、その文献の内容を発表し、他の参加者や教員と議論する。教員からも、各種の身心統合・身心変容技法についての文献の購読を促す。シラバスの各回に書いたテーマは一例であり、履修する院生の問題意識に合うテーマでの文献購読が可能。「f-NIRSを測定指標とした〇〇の心身効果研究」など測定指標を絞ることもでき、履修生の興味や問題意識の深まりによって、文献検索のキーワードも発展的に変化させる予定。文献購読だけに留まらず、教員から或いは院生から提示できる身心統合・身心変容技法等の体験も交えながら考察を深める。

ICT活用

クラウドを教員と院生が共有して文献などを保存し、同じ文献をともに読んだり、考察したりできる環境を整備する。

実務経験のある教員の教育内容

金は中枢神経疾患を中心とした臨床経験を持つ作業療法士。光がヒトの心身に与える影響について研究を行っている。今までに行った研究内容を紹介し、心身統合について考察する。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。実際に体験した心身統合技法から、様々な気づきを得てその体験を院生・教員間でシェアし合い、さらに深い洞察に至る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究紹介 光がヒトの心身に与える影響に関する研究を一つ紹介し、心身統合についての自説を伝える。	心拍変動や脳波など生理学的指標について調べる。(90分)	講義内容を復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	身心統合の考え方を書いた文献(心理臨床と身体-身心統合セラピーに向けて)についての討議。	事前に提示した文献(心理臨床と身体-身心統合セラピーに向けて)を読む(90分)	心身を統合的にとらえることについて、現在の考えや問題意識を記述しておく。(90分)
担当教員	未定		
第3回	* 院生の問題意識の発表(文献1)と討議 * マインドフルネスまたはリラクゼーション体験	問題意識に沿ってキーワードを数個挙げ、キーワードについて読みたい文献1を検索し説明の準備。(90分)	文献購読や討論、身心変容技法の体験を踏まえこの科目での文献購読による自身の達成目標を記載しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第4回	* 各種の身心統合・変容技法の紹介1 フォーカシング、ダンス・ムーブメントセラピー、呼吸法、各種リラクゼーション技法、気功、合気道、マインドフルネスなど・・・院生の興味に沿った技法を取り上げる。	興味や問題意識に沿い達成目標を実現するのに役立つ文献検索により文献2を選択(90分)	文献購読や討論、身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		

第5回	*教員による文献の紹介 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	選択した文献2を購読する(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第6回	*院生の問題意識の発表(文献2)と討議 *マインドフルネスまたはリラクゼーション体験	文献2の説明の準備(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第7回	*教員による文献の紹介 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	興味や問題意識に沿った文献検索により文献3を選択(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第8回	*教員または院生による文献の紹介(院生の人数による) *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	選択した文献3を購読する(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第9回	*院生の問題意識の発表(文献3)と討議 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	文献3の説明の準備(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第10回	*教員による文献の紹介 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	興味や問題意識に沿った文献検索により文献4を選択(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		

第11回	*教員または院生による文献の紹介(院生の人数による) *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	選択した文献4を購読する(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第12回	*院生の問題意識の発表(文献4)と討議 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	文献4の説明の準備(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第13回	*教員による文献の紹介 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	興味や問題意識に沿った文献検索により文献5を選択(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第14回	*教員または院生による文献の紹介(院生の人数による) *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	選択した文献5を購読する(90分)	文献購読や討論, 身心変容技法の体験を踏まえ深まった問題意識や気づきを記述しておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第15回	*院生の問題意識の発表(文献5)と討議 *リクエストのあった身心変容技法, 心理技法を教員または院生が主導して体験する	文献5の説明の準備(90分)	ここまでの記述の蓄積を見直し, この科目の最初の目標が達成できたかや, その他の変化をレポートにする。
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション・討論・心身技法体験への積極的な参加を評価。最後のまとめレポートを評価	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>必要な文献を配布する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>目幸黙僊ほか:心理臨床におけるからだ.朱鷺書房, 2007 鎌田東二(編):身心変容の科学～瞑想の科学。サンガ, 2017</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>発表・討論・身心変容技法等の実体験には積極的に参加すること。</p>		
<p>備考欄</p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		プレゼンテーション技法				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	2
担当教員		金谷 匡紘、大川 浩子、佐藤 明紀、金 京室					
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」や「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる(関心・意欲・態度)」に関連する科目であり、研究成果を分かりやすく伝える方法を学ぶ。リハビリテーション科学特別研究での研究計画発表や修士論文発表と関連する。</p>							
授業の概要							
<p>自己の研究について専門外の人にも分かるよう、写真、図、表などを用いて視覚的効果のあるプレゼンテーション方法を学修する。また、日本語および英語によるプレゼンテーションについても経験する。</p>							
到達目標							
<p>自己の研究を簡潔にまとめることができる。 学会発表を想定し、写真、図、表を用いて視覚的効果のあるプレゼンテーションを日本語および英語で行うことができる。</p>							
授業の方法							
<p>各講義毎の課題で作成した資料やパワーポイントを用い、学生中心のディスカッションを交えた講義形式とする。</p>							
ICT活用							
<p>必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

担当する教員は臨床研究および学会や論文での発表経験が豊富な者で構成している。それぞれの経験を活かして聞き手に伝わる効果的なプレゼンテーションについて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に行うディスカッションで理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション プレゼンテーションの基礎知識	各自が過去に行ったプレゼンテーション資料を見直しておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第2回	既存の学術論文を読み、その要旨をまとめる	各自、興味のある既存の論文を数編準備すること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	既存の学術論文を読み、その要旨を発表する(佐藤)	前回の講義でまとめた要旨について、発表に際し特筆すべき点を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	既存の学術論文を読み、その中で使われている図や表がどの様に効果的なのかを考える	各自が準備した既存の論文について、図や表がどの様に扱われているのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある図を作成する	視覚的効果のある図とはどんな図なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある表を作成する	視覚的効果のある表とはどんな表なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第7回	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする	過去に経験した抄読会での発表方法についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第8回	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える	過去に経験した抄読会での発表方法について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第9回	ポスターを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする	過去に経験したポスター発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第10回	ポスターを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える	過去に経験したポスター発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第11回	スライドを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする	過去に経験したスライド発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	スライドを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える	過去に経験したスライド発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第13回	自己の研究テーマについて日本語でプレゼンテーションする	日本語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第14回	自己の研究テーマについて英語でプレゼンテーションする	英語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	まとめ聞き手に分かりやすいプレゼンテーションについて再度、確認する	本科目のこれまでの内容を見直しておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題および準備学習の内容で評価する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>特に指定しない。必要に応じて資料を配布します。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>特に指定しない。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>課題作成や文献検索、スライド作成のため、PC環境を整えておくこと。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		リハビリテーション科学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、大川 浩子、横井 裕一郎、佐々木 幸子、高田 雄一、金子 翔拓、白戸 力弥、佐藤 明紀、瀧山 晃弘、金 京室、金谷 匡紘、柴田 恵理子						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」ことに特に関係がある科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。</p> <p>各専門科目の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーション医療においては近年EBM(evidence based medicine)が強く求められている。このためリハビリテーションにおける専門基礎分野、臨床応用分野及び地域健康生活支援分野の最新動向を学習し、リハビリテーション医療や福祉分野における高度専門職業人としての必須の知識と研究方法を理解する。</p>							
到達目標							
<p>標以下の3点について概説できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎分野におけるEBM(evidence based medicine)の必要性と現状の問題点を説明できる。 2. 臨床応用分野におけるEBM(evidence based medicine)の必要性と現状の問題点を説明できる。 3. 地域健康生活支援分野におけるEBM(evidence based medicine)の必要性と現状の問題点を説明できる。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントや配布印刷物を活用しながら、講義形式あるいはゼミ形式で進める。 対面あるいはオンラインで行う。(どちらで行うかは担当教員に確認すること。)</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

木村は該当なし。瀧山は医師として、横井、高田、佐々木、佐藤、柴田は理学療法士として、大川、白戸、金子、金谷、金は作業療法士として、勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。
提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハビリテーション科学における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第2回	神経・細胞生理学分野における最近の研究と課題 1	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第3回	神経・細胞生理学分野における最近の研究と課題 2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	身体機能解析学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	運動器障害学分野における最近の研究と課題1	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	心身統合健康科学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	金 京室		
第8回	神経・細胞生理学分野における最近の研究と課題 3	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	木村 一志		
第9回	職業リハビリテーション学分野における最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	大川 浩子		
第10回	神経・発達障害学分野における最近の研究と課題1	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	横井 裕一郎		

第11回	運動器障害学分野における最近の研究と課題 2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	神経・発達障害学分野における最近の研究と課題2	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	金谷 匡紘		
第13回	運動器障害学分野における最近の研究と課題 3	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	病態生理学分野の最近の研究と課題	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	まとめと課題発表	これまでの授業についてまとめを作成し、課題の発表準備を行うこと。(120分)	発表に対する指摘について確認し、さらに文献を調べること。(60分)
担当教員	木村 一志		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートや授業中の討論への積極的な参加など	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>特に定めない</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、文献、参考資料などを配布する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>特になし</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		リハビリテーション管理学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子、大森 圭、未定						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる。(関心・意欲・態度)ことと特に関係がある科目である。また、「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」こととも関係する。</p>							
授業の概要							
<p>患者に安全・安心な医療を提供するには、経営の合理性と臨床的な合理性の両立が必要である。このため昨今、医療現場における経営の視点が重要視され、職種に関わらず医療に携わる者は、それぞれの立場で現場の運営を効率的かつ円滑に遂行することが求められている。効率的な組織運営に不可欠なマネジメントの視点により、医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団の関わり、患者中心のチーム医療の重要性等について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>医療機関や福祉施設等、組織の中でのチームをまとめる管理者として必要な能力を身につけ実践することができる。</p>							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業で実施する。 ・各回ともアクティブラーニング形式で、指定されたテーマに対し、各自の考えを発表する。 							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士としての病院勤務及び管理者としての経験を生かし、管理者を目指した授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインを用いて出された課題について講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 組織は人で伸びる(人罪・人在・人材・人財)。マズローの欲求段階説・成人の発達段階(加藤洋)の紹介。	シラバスを参照して事前学習をしておくこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第2回	ドラッグーによる管理(マネージメント)とは何か。SWOT分析(Strength:強味・Weakness:弱み・Opportunity:機会・Threat:脅威)とは何か、その理解と活用。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第3回	ドラッグーによる「一流の仕事をするプロの教え」より。成果を上げる意思決定の留意点、コミュニケーションの法則と手段。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第4回	コミュニケーション手法を考える(話し上手と聞き上手)。フォロワーシップ(リーダーを補佐する機能・能力)を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		

第5回	医療の質とは何か。診療の質、設備・機器の質、付帯サービスの質、提供体制の質、経済性の質を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第6回	リハビリテーション科における管理。量から質への転換。個人の予測力とチームのマネージメント力。自らが成長できることへの支援とは等について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第7回	リハビリテーション部門における組織化～職員配置と業務の組織化、部門別体制と病棟・疾患別体制、質的管理のための体制づくりを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第8回	病棟・施設業務管理～①急性期、②回復期、③療養病棟、④訪問・通所系、⑤介護保険施設など。部署内の情報伝達と院内活動への参加など。これらの理解と問題点を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第9回	人事労務管理(人事計画と職員管理、人事考課制度とその活用、年間計画に基づく個人目標の管理、職場におけるメンタルヘルス等)を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	大川 浩子		
第10回	リハ部門の教育システム(1)。医療職全体における継続教育を概観し、PT・OT・STが獲得すべき能力についてとくに新人教育について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		

第11回	リハ部門の教育システム(2)。中間管理職の育成のための教育を考える。これからの臨床実習(患者担当型から診療参加型実習)について対応方法を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第12回	リハビリテーション部門におけるリーダーシップとマネジメント、リハ科をリードするために必要なスキル、他部署との関係づくりに何が必要かを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第13回	医療機関におけるリスクマネジメント、リハビリテーション部門における事故対応および苦情対応、リスクマネジメント教育について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	大森 圭		
第14回	リハビリテーション部門の収益管理と関係法令、医療法人の業務範囲、労働条件、就業規則、働き方関連法案などを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第15回	より質の高いリハビリテーションを提供するために、チームの機能に応じたチームマネジメント、効率的な会議運営について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業毎における出欠確認課題で評価する。	

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>特になし。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>必要に応じPDFで紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>特になし。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		研究倫理特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志、高岡 哲子、生駒 一憲						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「研究者に求められる基本的な研究倫理を理解し、それを遵守することができる。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。							
授業の概要							
人を対象とする研究において、研究対象者(被験者)への適切な配慮ができることが不可欠である。また、昨今、研究不正行為が次々と明らかになり、研究者の社会的信用が危機に瀕している。このような状況の中、すべての研究に従事する者は、研究倫理を身に付けることが社会的に求められている。この授業では、人を対象とするリハビリテーション部門の研究に必要な研究倫理について学修する。							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理に関する基本的理解を獲得する。 ・リハビリテーション部門における医療の質を高めるための研究倫理教育の立案ができる。 							
授業の方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業で実施する。 ・各回ともアクティブラーニング形式で、定されたテーマに対し、事前に文献に目を通し、それに基づき各自の考えを発表する。 							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題について講評する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	人を対象とする医学・生命科学の歴史と国際的な研究倫理の誕生まで	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	木村 一志		
第2回	人の身体に由来する試料を用いた研究の倫理(「人体」の法的規制、提供者からの同意取得等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第3回	日本における倫理ルール of 枠組み(倫理的規制の経緯と特徴、倫理指針違反の事例等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第4回	調査研究に伴う倫理的配慮(疫学研究に関するガイドライン、調査研究における被害の特徴等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		

第5回	臨床試験を倫理的に行うために(臨床試験のプロセスと倫理的規制)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	未定		
第6回	研究者としての倫理(研究成果の共有、研究成果の発表、実験終了後のデータの取り扱い等)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	木村 一志		
第7回	研究発表の倫理と不正(典型的な不正、オーサーシップ、多重・分割投稿、不正防止の対応)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	木村 一志		
第8回	医学研究の信頼性と利益相反(研究資金と契約、利益相反の制度的管理と自主的管理)	教科書の当該部分を読んでおくこと。(90分)	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。
担当教員	高岡 哲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	授業毎の出欠確認課題で評価する。	
その他	40	日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングコース(大学院生向けコース、無料)を受講し、その修了書の写しを6月末日までに提出すること。	
教科書			

神里彩子・武藤香織編(2015)「医学・生命科学の研究倫理ハンドブック」東京大学出版会

参考文献

必要に応じてPDFにした資料を送るので確認すること。

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		統計学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
リハビリテーション分野に関する各専門知識の根拠を示すために用いられている統計解析法を修得するための科目である。ディプロマ・ポリシー「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係する科目である。							
授業の概要							
研究で得られた事象に対してある判断を下すときには、統計学の理論を用いた普遍的な判断基準が必要不可欠である。本講義では統計学の主要概念、基礎理論、医療系科学領域の研究に用いられる統計解析方法について学習する。また、研究課題に適した統計解析方法を選択し、統計解析ソフトを駆使して分析し、結果を正しく解釈する方法を学習する。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. データを適切に取り扱い、データの視覚化や要約統計量の計算ができる。 2. 統計的推測に必要な確率論と基本的な確率分布、および統計的推定、仮説検定の基礎を説明できる。 3. さまざまな課題に適した統計解析法を選択できる。 4. 統計ソフトを用いて統計解析を適切に行うことができ、その結果を正しく解釈することができる。 							
授業の方法							
リアルタイムでオンライン授業を行う。パワーポイントと配布印刷物を使用して質疑応答をまじえながら講義形式で行う。4回目以降は統計ソフト(R)を使用する実技も行う。							
ICT活用							
Google Formを用いて宿題、振り返りシートを提出させるとともに、質問事項への対応を行う。また、リアルタイムのオンライン授業であるため必然的にICTの活用を伴う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
提出物に対するコメントを返す。特に統計解析の実践をおこなう宿題の場合はその方法、結果の解釈について適切かどうかコメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【統計の基礎①】・データを測る尺度を理解する。 ・データの様子を把握するための手法である記述統計(度数分布、代表値、散布度)について学ぶ。 ・確率変数と確率分布を理解する。『遠隔』	記述統計についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。
担当教員			
第2回	【統計の基礎②】・標本から母集団の母数(母平均、母分散など)を予測する手法である統計的推定について理解する。ここでは母平均、母分散の点推定を学んだのち、標本平均の分布、標本分散と不偏分散との違いを理解する。『遠隔』	点推定、標本平均の分布、および標本分散と不偏分散についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。
担当教員			
第3回	【統計の基礎③】統計的推定における母平均や母分散の区間推定について理解する。主張したい仮説を検定する手法である統計的検定の考え方を学ぶ。『遠隔』	区間推定、統計的検定についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く(90分)。
担当教員			
第4回	【関連2群の差の検定】関連2群の比較を行うために必要な検定(正規性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の関連2群の差の検定)の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	関連2群の差の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			

第5回	【独立2群の差の検定】独立2群の比較を行うために必要な検定(等分散性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の独立2群の差の検定)の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	独立2群の差の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第6回	【2変数の関連の強さ】2つの変数の間の関連の強さを大小関係にもとづいて求める相関係数について理解する。また、2つの変数の大小関係のみならず、値そのものの一致度である級内相関係数、カッパ係数について理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	相関係数についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第7回	【効果量と検定力分析】近年、帰無仮説検定のみ依存した従来の統計手法から効果量を重視する方向での統計改革が起こっている。効果量とはなにかを概説し、2群の差の検定における効果量を理解する。また、効果量をもとにして検出力や標本サイズの算出を行う検定力分析について学ぶ。また、統計ソフト(R、GPower)を用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	効果量と検定力についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第8回	【1要因の多群間の比較】1要因の多群の比較を行うための検定を関連がないデザインと関連があるデザイン(反復測定)について学ぶ。また、多重比較の考え方、多重比較における様々な手法について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに、反復測定における研究デザインについて理解する。『遠隔』	1要因の多群間の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第9回	【有意水準の調整法】反復測定された要因の多重比較では、関連のないデザイン時のような多重比較法が適用できないため、有意水準を調整して2群間の検定を行う必要がある。ここでは様々な有意水準の調整法を学ぶ。 【2要因の計画と分散分析①】2要因とも独立な場合の繰り返しのある二元配置分散分析について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	有意水準の調整法、2要因とも独立な場合の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第10回	【2要因の計画と分散分析②】1要因が反復測定の二元配置分散分析および2要因とも反復測定の二元配置分散について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに研究デザインにおける偽実験計画と真の実験計画について理解する。『遠隔』	反復測定を含む2要因の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			

第11回	【出現頻度の比較(分割表の検定)】2つの名義尺度で各要因が2分類されているとき要因間の関連の有無を度数から調べる2×2分割表の検定(カイ2乗検定、フィッシャーの直接確率法、マクニマー検定)について学ぶ。また、名義尺度または順序尺度の2要因(変数)で少なくとも1つの要因が3分類以上のとき変数間の関連の有無を度数から調べるm×n分割表の検定についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。 【単回帰】1つの目的変数を1つの説明変数で予測する式を求める単回帰について学ぶ。『遠隔』	分割表の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第12回	【多変量解析①重回帰分析】1つの目的変数を複数の説明変数によって予測する式を求めたり、説明変数に対する独立変数の影響の度合いを解析する方法である重回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	重回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第13回	【多変量解析②多重ロジスティック回帰分析】目的変数がYesかNoか等の質的な変数に対して、複数の説明変数の影響の度合いを解析したり、説明変数から目的変数を求める予測式を求める方法である多重ロジスティック回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	多重ロジスティック回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第14回	【多変量解析③主成分分析】調査・測定によって得られた複数の変数をなるべく少数の合成変数に統合して表し、統合された変数の解釈や個々の個体の特徴を評価する分析方法である主成分分析を学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	主成分分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			
第15回	【多変量解析④因子分析】調査・測定によって得られた複数の変数から、その背後にある潜在変数をあぶり出す分析方法である因子分析および分析の注意点を学ぶ。また、因子分析と重回帰分析を統合した共分散構造分析の概略を学ぶ。統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。『遠隔』	因子分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出された課題の内容により評価する。

<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>真に役立つ研究のデザインと統計処理／関谷昇／三輪書店 伝えるための心理統計／大久保街亜、岡田謙介／勁草書房</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>特になし</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		保健福祉政策論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水本 淳、生駒 一憲						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマポリシーの「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる(知識・技能)」や「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」に関連する科目である。リハビリテーション分野に関わる「日本の医療政策と地域医療システム」から各自が所属する医療機関や施設の「役割」について考察する授業である。</p>							
授業の概要							
<p>我が国の保健福祉政策は、高齢者人口の急増による年金・福祉・医療・介護等の需要が増大する中、今後どのようなサービスを提供し維持するかが大きな課題となっている。この授業では、我が国の社会保障制度改革の方向性や、諸外国の医療・福祉事情、そして我が国の「地域包括ケアシステム」と「地域リハビリテーション」について理解を深める。具体的には、日本における高齢者人口の急増をもたらす年金・福祉・医療・介護等の諸問題と諸外国の医療・福祉事情について現状を理解し、日本との違いについて考察する。また、「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において臨床現場で直面する課題や今後の展望について、患者や社会政策上の視点から考察する。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の医療・介護・福祉制度の仕組みについて説明できる 2. 我が国と諸外国の医療・介護・福祉制度の違いについて説明できる 3. 我が国の医療政策をめぐる課題と社会保障制度改革の方向性について説明できる 4. 「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において直面する課題や今後の展望について説明できる 							
授業の方法							
<p>最新の知見や学生それぞれの臨床経験を踏まえたディスカッションを交えながら講義形式で行う。</p>							
ICT活用							
<p>必要に応じてGoogle Meetを用いて遠隔授業を行う。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者の水本は理学療法士としての臨床経験や地域住民の健康増進に関わる調査経験を活かして本科目を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中のディスカッションを通して理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 20世紀の日本の医療制度について理解する	講義内容の関連事項について 文献をできるだけ多く読み理解 を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまと めておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第2回	21世紀の日本の医療制度について理解する	講義内容の関連事項について 文献をできるだけ多く読み理解 を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまと めておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第3回	日本の先進医療について考える	講義内容の関連事項について 文献をできるだけ多く読み理解 を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまと めておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第4回	海外の医療制度について日本との違いを考える	講義内容の関連事項について 文献をできるだけ多く読み理解 を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまと めておくこと。(90分)
担当教員	未定		

第5回	日本の介護保険制度について理解する	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	海外の介護保険制度について日本との違いを考える	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第7回	日本の福祉制度について理解する	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第8回	海外の福祉制度について日本との違いを考える	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第9回	地域包括ケアシステムの制度および概要について理解する	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第10回	現状の地域包括ケアシステムの課題とその解決策を考える	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		

第11回	各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(学生が話題を提供する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第12回	各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(#11とは異なる学生が問題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第13回	各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(#12とは異なる学生が問題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第14回	種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(学生が話題を提供する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		
第15回	種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(#14とは異なる学生が話題を提供する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	水本 淳		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内に提示する課題を評価する

<p>その他</p>	<p>50</p>	<p>授業中に行うディスカッションへの参加や発言の内容を評価する</p>
<p>教科書</p>		
<p>指定しないが、必要に応じてインターネット検索を指示する</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>指定しないが、インターネットや雑誌等で検索できるようにしておくこと</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>インターネット環境を整えておくこと</p>		
<p>備考欄</p>		
<p></p>		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		リハビリテーション科学特別研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	8
担当教員	木村 一志、横井 裕一郎、高田 雄一、田邊 芳恵、金子 翔拓、佐藤 明紀、瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
<p>ディプロマ・ポリシーの「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。</p> <p>基本的研究能力を養い、修士論文作成や修士論文発表を行う。</p> <p>各専門分野の「特論」や「特論演習」と関連し、修士課程修了後のリハビリテーション研究の基礎となる。</p>							
授業の概要							
<p>リハビリテーション科学専攻領域の講義科目・演習を踏まえ、理学療法及び作業療法における実践・研究・教育を発展させる研究課題を決定し、その課題に適した研究方法を探求し、実践して論文を作成する。</p>							
到達目標							
<p>修士論文を作成し、修士論文審査会で発表を行い、審査に合格する。</p>							
授業の方法							
<p>リハビリテーション科学特別研究は、1年前期から2年後期までの通年指導を受け、論文を作成し、論文審査並びに最終試験に合格した場合、8単位を一括付与する。</p> <p>指導内容によってはオンラインで行う。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

木村は該当なし。瀧山は医師として、田邊、横井、高田、佐藤は理学療法士として、金子は作業療法士として勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について研究を指導する。

課題に対するフィードバックの方法

研究指導教員や所属大学院生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、作成した修士論文やその発表に対してコメントを行います

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(120分)
担当教員			
第2回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(120分)
担当教員			
第3回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(120分)
担当教員			
第4回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(120分)
担当教員			

第5回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)
担当教員			
第6回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)
担当教員			
第7回	研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と 打合わせを行うこと。(60分)	さらに文献収集を行い、内容を 吟味して、研究テーマについて 熟考すること。(120分)
担当教員			
第8回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを1年次6月末までに研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プ レゼンテーションの準備をす ること。(120分)	検討結果を受けて、研究テー マの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第9回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プ レゼンテーションの準備をす ること。(120分)	検討結果を受けて、研究テー マの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第10回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プ レゼンテーションの準備をす ること。(120分)	検討結果を受けて、研究テー マの修正を行うこと。(60分)
担当教員			

第11回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第12回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第13回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第14回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第15回	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(120分)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第16回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			

第17回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			
第18回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			
第19回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			
第20回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			
第21回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			
第22回	具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。 1年次12月末までに、研究指導教員の指導の下に「北海道文教大学研究倫理規定」を遵守した修士論文作成計画書を提出する。	具体的な研究計画を練ること。(120分)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(60分)
担当教員			

第23回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第24回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第25回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第26回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第27回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第28回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			

第29回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第30回	研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。 1年次2月までに、研究計画を発表し、評価を受ける。 その後、評価結果に基づいて計画の修正等を行う。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(120分)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(60分)
担当教員			
第31回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第32回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第33回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第34回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			

第35回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第36回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第37回	研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(60分)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(120分)
担当教員			
第38回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第39回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第40回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			

第41回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第42回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第43回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第44回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	指導教員の評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第45回	本研究の後段的遂行 本実験や本調査における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。 2年次9月までに、修士論文中間発表会で発表する。 修士論文中間発表会では研究内容を発表し評価を受ける。 指摘事項について追加実験や再分析を行い補足していく。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(120分)	中間発表に対する評価を受けて、仮説や考察の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(60分)
担当教員			
第46回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			

第47回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			
第48回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			
第49回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			
第50回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			
第51回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			
第52回	中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の最終段階に入る。 2年次9月までに修士論文の概要を研究指導教員に提出する。	修士論文作成の準備をすること。(120分)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(60分)
担当教員			

第53回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第54回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第55回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第56回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第57回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第58回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			

第59回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次1月までに修士論文を提出する。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	指導教員等より評価を受けて、修士論文とプレゼンテーション修正を行うこと。(60分)
担当教員			
第60回	研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次2月までに修士論文審査会で発表を行い、審査を受ける。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(120分)	審査会の評価を受けて、修士課程修了後の研究内容について熟考すること。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究過程と作成論文及び論文の発表により評価する。	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
研究課題に関する文献を随時紹介する。			
履修条件・留意事項等			

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		教育課程・方法特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
<p>①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。</p> <p>②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める。</p>							
到達目標							
<p>①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。</p> <p>②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。</p> <p>③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。</p>							
授業の方法							
<p>①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。</p> <p>②少人数のゼミ形式によってすすめる。</p> <p>③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。</p>							
ICT活用							
<p>・e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、参加者のレポートをプラットフォーム上で共有し、アクティブ・ラーニングを深める。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。この経験をふまえ、教師の学びと育ちについての考察を深めてきた。さらにこの間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、アクティブ・ラーニングを実践していく。

課題に対するフィードバックの方法

・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション:大学院における授業の進め方	シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第2回	・新しい幼稚園教育要領及び小学校指導要領を、社会情動的スキルの面から検討する。	・社会情動的スキルとは何か、について調べておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第3回	・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第4回	・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			

第5回	・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第6回	・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第7回	・幼児教育における「哲学対話」の可能性を討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第8回	・幼児期の遊びと育ちをふまえた「スタートカリキュラム」の編成を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第9回	・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。	・「保育所保育指針」を読む。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第10回	・子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			

第11回	・「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第12回	・「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第13回	・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第14回	・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員			
第15回	・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。	・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)

<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>・授業内で、適宜テキストを指示します。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>・川口創+平松知子(2017)『保育と憲法』大月書店 ・近藤幹生(2018)『保育の自由』岩波新書 その他、授業内で適宜紹介する。 ・佐藤学(2012)『学校改革の哲学』東京大学出版会. ・佐藤学(2021)『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』岩波書店. ・鯨岡峻(2005)『エピソード記述入門』東京大学出版会</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたいと思います。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。</p>		